

学芸員補に関する科目（令和7年度入学生用）

科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	摘要
90010	90011	生涯学習概論（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	孫 冬梅	[司]「生涯学習概論」で相互乗入読替 いずれか一つ履修
90010	90012	〃（月曜Ⅳ限）						
90020		博物館概論	2	30	1	前期	角屋由美子	
90030		博物館経営論	2	30	1・2	後期	佐藤 琴	
90040		博物館資料論	2	30	1・2	後期	角屋由美子	
90050		博物館資料保存論	2	30	1・2	集中	塩田 達也	後期開講（2～3月）
		博物館展示論	2	30	2	前期	阿部 哲人	
90070		博物館情報・メディア論	2	30	1・2	後期	小池 隆太	
90080		博物館教育論	2	30	1	前期	山口 博之	
		博物館実習一	1	45	2	前期	阿部 哲人	「博物館実習一」と「同二」を併せて受講
		博物館実習二	2	90	2	通年	吉田 ・ 小林	館園実習、事前・事後指導等を含む

（注） 「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる

学芸員補に関する科目（令和6年度入学生用）

科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	摘要
90010	90011	生涯学習概論（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	孫 冬梅	[司]「生涯学習概論」で相互乗入読替 いずれか一つ履修
90010	90012	〃（月曜Ⅳ限）						
		博物館概論	2	30	1	前期	角屋由美子	
90030		博物館経営論	2	30	1・2	後期	佐藤 琴	
90040		博物館資料論	2	30	1・2	後期	角屋由美子	
90050		博物館資料保存論	2	30	1・2	集中	塩田 達也	後期開講（2～3月）
90060		博物館展示論	2	30	2	前期	阿部 哲人	
90070		博物館情報・メディア論	2	30	1・2	後期	小池 隆太	
		博物館教育論	2	30	1	前期	山口 博之	
90090		博物館実習一	1	45	2	前期	阿部 哲人	「博物館実習一」と「同二」を併せて受講
90100		博物館実習二	2	90	2	通年	吉田 ・ 小林	館園実習、事前・事後指導等を含む

（注） 「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる

講義科目名称： 生涯学習概論(学) (90010)

授業コード： 90011 90012

英文科目名称： ー

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	学芸員補必修
担当教員			
孫 冬梅			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	1. 生涯学習に関する基本的な理論や歴史的背景について理解を深める。 2. 関連する法制度を理解し、事例を通じて生涯学習の理念や価値を分析できる。 3. 生涯学習の意義を考察し、主体的に考えを深める力を身につける。	
授業計画	第1回	
	タイトル	オリエンテーション・生涯学習とは何か
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	生涯学習と社会教育の歴史
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	生涯学習論の登場
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	生涯学習支援の取り組み
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	生涯学習の関連行政
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	生涯学習と現代社会
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	生涯学習と学校教育
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	生涯学習施設としての図書館と職員
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	生涯学習施設としての博物館と職員
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	成人学習論の展開
	フリー欄	
第11回		
タイトル	生涯学習と青少年	
フリー欄		
第12回		
タイトル	生涯学習と女性	

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	生涯学習と高齢者
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	生涯学習と社会教育をめぐる課題
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ
	フリー欄	※関係法令は講義内で随時触れる。
授業概要	本授業では、生涯学習と社会教育の基本概念、法令、歴史、施策の動向、生涯学習活動への支援、課題を扱う。講義では理論の理解を深めるとともに、実践的視点を取り入れ、図書館や博物館などの専門施設の役割や職員の取り組みも紹介し、社会教育と生涯学習の意義を考察する。	
実務経験及び授業の内容	学校と地域社会の関係構築を調査した知見を授業に活かして地域連携を重視した生涯学習モデルを紹介する。地域特性に基づく生涯学習の可能性を探求する。	
時間外学習	予習として参考書を読み、授業に臨む。身近な生涯学習施設（公民館、図書館、博物館等）を利用し、講座や講演会、イベントなどの学習機会に関心を持ち、自主的に学習テーマを考える。	
テキスト	特に用いない。講義では、レジュメや資料を配布し、重要な文献についてはその都度紹介していく。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	生涯学習や社会教育に関する理論や法令を覚えるだけでなく、学びへの自主的な参加が大切です。講義では具体的な事例を紹介したり、ワークショップやミニレポート等により、皆さんの経験や考えも参考します。具体的なイメージを持って生涯学習の理解を深めましょう。	
評価方法	テスト（50%）、ミニレポートの提出（30%）、授業への参加度（20%）。授業は2/3以上の出席が必要。	
参考文献	必要に応じて関連する資料やレジュメを授業内で適宜配布する。	
備考	参考書 ・佐藤晴雄（2023）『生涯学習概論（第3次改訂版）』学陽書房、2,860円（税込）。 ・小林繁・平川景子・片岡了（2023）『生涯学習概論：学びあうコミュニティを支える 第3版』エイデル研究所、2,200円（税込）。	

講義科目名称： 博物館概論（90020）

授業コード： 90020

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	学芸員補必修
担当教員			
角屋 由美子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	博物館の目的と機能、その歴史と現状、博物館倫理、関連法規等博物館に関する基礎的知識の習得を図ることをねらいとする。 博物館のあるべき姿を模索し、生涯学習における博物館の役割と成長を考えながら、博物館の見方、利用の仕方等についても理解を深める。	
授業計画	第1回	
	タイトル	博物館学とは
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	博物館の歴史（世界）
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	博物館の歴史（日本：古代～近代）
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	博物館の歴史（日本：近代・現代）
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	博物館の機能
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	博物館の役割と入館者（役割）
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	博物館の役割と入館者（博物館への入館）
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	博物館教育と職員
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	博物館学芸員の専門性
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	博物館の管理/運営（管理機関と計画・評価）
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	博物館の管理/運営（類縁機関・サポーター）
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	博物館とその建物（建築空間の具体的設計）
	フリー欄	

	第13回	
	タイトル	博物館とその建物（備品・照明）
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	博物館倫理／博物館関連法規
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	博物館変革の時代
	フリー欄	（講義内容に変更の場合があります。）
授業概要	講義を中心に考え方や意見を求める。	
実務経験及び授業の内容	学芸員として博物館に30年以上勤務しており、この経験を生かし、変化に応じた博物館の最先端の動向を授業に反映する。	
時間外学習	土日祝日を利用して、さまざまな博物館・美術館・資料館を見学しに行くこと。	
テキスト	必要に応じてプリント等を配布。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	歴史・美術・民俗・考古・自然科学・保存科学等の専門分野は現場において重要なことであるが、その前提として博物館の機能についての共通認識と、博物館の種類による特徴を明らかにして、博物館とはいかなる施設かを理解してほしい。 博物館法や文化財保護法、自治体の条例の改正等により博物館資料の活用へ、比重がシフトする現状において博物館のあるべき姿を学生の意見を聞きながら、ともに考えたい。	
評価方法	試験、授業への参加度	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 博物館経営論（90030）

授業コード： 90030

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	学芸員補必修
担当教員			
佐藤 琴			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	博物館が社会において果たすべき役割を明確にし、博物館経営学の具体的な方策を立案および実行する元となる知識を学ぶ。	
授業計画	第1回	
	タイトル	博物館経営論とは
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	博物館関係者の行動規範 博物館の経営資源と特性
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	ヒト 博物館を支える人々
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	ヒト 独立行政法人と指定管理者制度
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	ヒト 官民連携
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	モノ 立地・建物・設備
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	カネ 予算・経費
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	カネ クラウドファンディング
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	情報 PR・インターネット
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	博物館の評価
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	危機管理
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	実在の博物館を例に経営について考えてみる 1
	フリー欄	
	第13回	

	タイトル	実在の博物館を例に経営について考えてみる 2
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	これからの博物館
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめと試験
	フリー欄	
授業概要	博物館経営の意義と基礎知識を講義する。近年の経営方法の多様化と様々な主体との連携についてもとりあげ、今必要とされている知識の修得に努める。	
実務経験及び授業の内容	学芸員の実務経験がある。この経験を活かし、博物館での実践を通して獲得した知見を伝達する。	
時間外学習	土日祝日を利用して、さまざまな博物館・美術館・資料館等を学芸員の視点で見学するように努めること。	
テキスト	授業資料は教員が作成して配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	博物館に限らず、経営とは経営者だけのものではない。創造的に働く全ての者が考えなければならない。また、博物館は社会的使命があり、その達成のためにいかに活動をすすめていくかを考えることが博物館経営である。	
評価方法	博物館見学レポート 30% 期末レポート 70%	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 博物館資料論（90040）

授業コード： 90040

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	学芸員補必修
担当教員			
角屋 由美子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	博物館資料の概念及びその収集・整理保管・保存・調査研究・展示という一連の流れや、それぞれに関する知識の習得を図り、理論と実践の関係を定着させる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	博物館資料とは
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	博物館資料の収集
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	博物館資料管理システム
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	博物館資料の分類/整理(受入から登録まで)
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	博物館資料の分類/整理(分類と配架)
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	博物館資料と調査研究
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	美術工芸資料について(古文書/典籍)
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	美術工芸資料について(絵画)
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	美術工芸資料について(仏像/仏具)
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	美術工芸資料について(甲冑/刀剣)
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	美術工芸資料について(染織)
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	歴史資料について
	フリー欄	
	第13回	

	タイトル	民俗資料について
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	博物館資料の修理/修復－国宝上杉本洛中洛外図屏風を中心に
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	博物館資料の修理/修復－国宝上杉家文書を中心に
	フリー欄	(講義内容に変更場合があります。)
授業概要	講義を中心に考え方や意見を求める。	
実務経験及び授業の内容	学芸員として博物館に30年以上勤務しており、この経験を生かし、変化に応じた博物館の最先端の動向を授業に反映する。	
時間外学習	専門用語等の分からない言葉を辞書や関連図書を使用して事前に調べておくこと。	
テキスト	必要に応じてプリント等を配布	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	博物館資料は博物館の主体をなすものであるから、資料管理の重要性と利便性、情報発信・教育普及に大きく影響する業務とその内容について理解を深め、博物館資料に対する緊張感とその魅力を感じてほしい。学生の発言を聞き、課題について解決できるよう導きたい。	
評価方法	試験、レポート及びカード等の提出物、授業への参加度	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 博物館資料保存論（90050）

授業コード： 90050

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	学芸員補必修
担当教員			
塩田 達也			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	歴史系博物館における資料保存をテーマとし、古文書・古典籍（紙資料）を中心に、博物館資料の適切な保存についてその概要を知るとともに、実際の保存方法や保存環境について理解する。	
授業計画	第1回	
	タイトル	博物館資料の概要(1)
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	博物館資料の概要(2)～資料保存の意義および役割～
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	博物館資料の基本的な保存方法・環境(1)〔美術工芸資料〕
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	博物館資料の基本的な保存方法・環境(2)〔文書資料〕
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	博物館資料の基本的な保存方法・環境(3)〔歴史・考古資料ほか〕
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	展示における資料保存的概念
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	展示空間における資料の保護と環境整備（特別展などの例）
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	特別展等における借用資料に対する資料保存・管理
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	古文書の国 日本—日本に紙資料がなぜ多いのか—
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	紙資料保存の基本概念
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	紙資料の実際的保存方法・環境(1)
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	紙資料の実際的保存方法・環境(2)
	フリー欄	
	第13回	

	タイトル	被災資料を救うー被災文化財等レスキュー事業ー
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	被災資料の処置・保存(1)
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	被災資料の処置・保存(2)
	フリー欄	
授業概要	まず、種別や材質・性質の違いなど、博物館資料全般の概要・資料保存の意義と役割を論じ、それぞれ適切な保存の方法や環境とは、いかなる考え方に基づいて実践されているかを論ずる。次に、古文書・古典籍（紙資料）等の保存について、その基本的な概念と実際的な方法・環境について論ずる。さらに、地震・津波等の被災資料に対する処置や保存に関する考え方についても触れる。	
実務経験及び授業の内容	学芸員（博物館職員）の実務経験があり、この経験を生かし博物館資料保存論の授業を行う。	
時間外学習	機会を見つけて、さまざまな博物館・美術館・資料館を見学しに行くこと。	
テキスト	各回で資料を配付する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	博物館における資料の保存は、個々の資料の特性を理解し、それぞれに適した方法を選択しなければなりません。博物館資料保存の全般を知り、かつ実際的な方法・環境をここで学ぶことによって、個々の資料の保存に対応できる考え方・技術を会得しましょう。	
評価方法	授業への参加度・レポート等	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 博物館展示論（90060）

授業コード： 90060

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	学芸員補必修
担当教員			
阿部 哲人			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	1、博物館展示の制作過程を理解する。 2、効果的な展示のための方法を理解する。	
授業計画	第1回	
	タイトル	博物館展示の歴史と課題
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	博物館の種類と展示手法
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	博物館の建設
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	博物館の建設
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	博物館の建設
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	企画展の制作
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	企画展の制作
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	企画展の制作
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	展示のリスク
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	展示効果の拡充
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	展示効果の拡充
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	展示効果の拡充
	フリー欄	
	第13回	

	タイトル	展示の評価
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	展示の評価
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ
	フリー欄	
授業概要	博物館の現状と、その基本的業務である展示のあり方と効果的な方法、課題について学び、実際に展示を企画するために基礎的な知識を習得する。	
実務経験及び授業の内容	米沢市上杉博物館に学芸員として勤務しており、その実務経験を生かした授業を行います。	
時間外学習	できるだけ多くの博物館や美術館に足を運び、展示の仕方の工夫や特徴、そのための扱い方の注意などを考えて下さい。	
テキスト	参考文献は授業で指示。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	博物館で展示される資料が持つ価値を観覧者に伝えるためにどのような努力がなされているのかを理解してもらいたいと思います。	
評価方法	試験	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 博物館情報・メディア論（90070）

授業コード： 90070

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	学芸員補必修
担当教員			
小池 隆太			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	本講義の目的は、まず I C T 社会における「メディア教育」の基本理念を理解した上で、博物館・美術館等におけるメディアの活用及び情報発信の課題について判断することができる、そして、情報セキュリティや個人情報保護、ならびに著作物や知的財産の権利関係について配慮することができる、「学芸員としての」情報リテラシーの修得にあります。	
授業計画	第1回	
	タイトル	メディアとコミュニケーション
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	メディア教育の理論
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	メディア教育の実践と事例
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	学芸員とメディア技術
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	視聴覚メディアの教育工学的特性（放送メディア）
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	視聴覚メディアの教育工学的特性（記録メディア）
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	視聴覚メディアの教育工学的特性（教育メディア）
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	情報システムとコンピュータ
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	メディアとインターフェース
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	アルゴリズムと A I
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	マルチメディアとインターネット
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	情報セキュリティと個人情報保護
	フリー欄	

	第13回	
	タイトル	著作権と知的財産権・肖像権
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	著作権に関する事例研究
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	ユビキタス社会とデジタルデバイド
	フリー欄	
授業概要	現代のデジタルメディアをめぐる諸問題について、具体的には教育展示や情報提示のために用いられる視聴覚メディアの理論と歴史、情報処理とコンピュータの基礎知識、ならびに知的財産権と権利関係をめぐる問題について講義形式で学びます。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	講義内容に関する課題を定期的に提出してもらいます。普段から博物館や美術館に関心を持ち、訪問の際にそこで活用されている視聴覚教育メディアや情報機器に着目する（可能であればメモをとっておく）ことを求めます。本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題やリアクションペーパーの提出によって、学修内容を深めてもらう予定です。	
テキスト	資料プリントを適宜配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	デジタルメディアが博物館・美術館、そして教育にもたらす新しい可能性とその課題について考える科目です。これらの施設を利用する際には利用者にとっての情報・教育コミュニケーションのあり方を考えてください。	
評価方法	授業での課題提出 50%、期末レポート課題 50%。	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 博物館教育論（90080）

授業コード： 90080

英文科目名称： ー

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	学芸員補必修
担当教員			
山口 博之			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	1. 博物館における教育活動を支える基礎的・基本的な教育理論、博物館固有の教育方法、社会教育機関としての位置づけと役割を理解する。 2. 博物館における教育活動に携わるうえでの基礎的な能力を養うことを目指す。	
授業計画	第1回	
	タイトル	博物館教育の理念
	フリー欄	博物館を通して行われる教育の理念と特徴を知る
	第2回	
	タイトル	博物館教育の歴史と意義（1）
	フリー欄	山形県立博物館の活動を通して概要を把握する
	第3回	
	タイトル	博物館教育の歴史と意義（2）
	フリー欄	山形県立博物館の活動を通して社会教育や学校教育との違いを知る
	第4回	
	タイトル	博物館展示の教育的意義（1）
	フリー欄	展示がどう構成されているか教育的側面から考える
	第5回	
	タイトル	博物館展示の教育的意義（2）
	フリー欄	自らの博物館経験を通して考える
	第6回	
	タイトル	博物館展示の教育的意義（3）
	フリー欄	世界の博物館の歴史と求められた意義を知る
	第7回	
	タイトル	博物館展示の教育的意義（4）
	フリー欄	日本の博物館の歴史と求められた意義を知る
	第8回	
	タイトル	地域と博物館（1）
	フリー欄	地域と博物館をつなぐ視点を知る
	第9回	
	タイトル	地域と博物館（2）
	フリー欄	地域の博物館について教育的工夫を知る
	第10回	
	タイトル	学校と博物館（1）
	フリー欄	博物館と学校との教育的共同を知る
	第11回	
	タイトル	学校と博物館（2）
	フリー欄	博物館と学校との教育的共同の方法を知る
	第12回	
	タイトル	展示補助資料の目的と作成（1）
	フリー欄	博物館展示の教育的工夫を知る

	第13回	
	タイトル	展示補助資料の目的と作成（２）
	フリー欄	博物館展示の具体的資料を学ぶ
	第14回	
	タイトル	博物館におけるボランティア
	フリー欄	博物館ボランティアの実際と理念を知る
	第15回	
	タイトル	レポート作成
	フリー欄	自らの博物館体験についてまとめる
授業概要	教育原理を踏まえて博物館教育の概要を講義するとともに事例に基づく演習も行う。	
実務経験及び授業の内容	山形県立博物館学芸員としての実務経験を基に基礎と実践を深める。	
時間外学習	博物館の実施する教育普及活動への参加。	
テキスト	適宜プリントを配布、必要に応じて参考文献や書籍を紹介する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	博物館は好きですか？、どんなところが？。この講義では博物館の教育的側面を学習します。まずは身近な博物館へ何回も足を運んでみてください。そして博物館の実施する教育普及活動へ参加してみてください。またさまざまな博物館の教育活動を自分で考えることにも挑戦してみます。	
評価方法	授業への出席、および課題・演習へ取り組む姿勢、レポート提出	
参考文献		
備考	講義内容と進行は学生諸氏の理解を踏まえ内容構成を適宜見直す。	

講義科目名称： 博物館実習一（90090）

授業コード： 90090

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	学芸員補必修
担当教員			
阿部 哲人			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：実習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	博物館では資料原本を扱うことが職務では必須である。この授業では、その資料の扱い方について、資料に向き合う姿勢、実際の扱い方を学び、資料の整理などを通して実践的な知識・技術の習得を目指す。日本史学専攻の学生が大半であるので、歴史資料を中心とした実習になる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	博物館における資料と資料に向き合う姿勢
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	資料の扱い方（文献資料①）
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	資料の扱い方（掛軸①）
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	資料の扱い方（卷子①）
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	資料整理（文献資料①）
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	資料整理（文献資料②）
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	資料整理（文献資料③）
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	資料の扱い方（文献資料②）
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	資料の扱い方（掛軸②）
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	資料の扱い方（卷子②）
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	資料整理（文献資料④）
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	資料整理（文献資料⑤）
	フリー欄	

	第13回	
	タイトル	資料整理（文献資料⑥）
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	資料整理（文献資料⑦）
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	資料整理（文献資料⑧）
	フリー欄	
授業概要	実際の資料を扱う実践を通して、学習していきます。	
実務経験及び授業の内容	米沢市上杉博物館に学芸員として勤務しており、その実務経験を生かした授業を行います。	
時間外学習	できるだけ多くの博物館や美術館に足を運び、展示の仕方の工夫や特徴、そのための扱い方の注意などを考えて下さい。	
テキスト	授業で指示	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	資料の扱いは実践を通して身につけていくものです。急がず、ゆっくりとやっていきましょう。	
評価方法	平常点と出席	
参考文献	授業で指示	
備考		

講義科目名称： 博物館実習二（90100）

授業コード： 90100

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	2	学芸員補必修
担当教員			
吉田 歓・小林 文雄			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：実習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	博物館において実習を行う。 到達目標 ①学芸員としての資質を身につけることができる。 ②実習によって実践力を身につけることができる。 ③学芸員としての心構えを身につけることができる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	事前指導 1
	フリー欄	博物館実習の心構えと準備
	第2回	
	タイトル	事前指導 2
	フリー欄	各館での実習予定の確認
	第3回	
	タイトル	館園実習 1
	フリー欄	各館における博物館実習の実施
	第4回	
	タイトル	館園実習 2
	フリー欄	各館における博物館実習の実施
	第5回	
	タイトル	館園実習 3
	フリー欄	各館における博物館実習の実施
	第6回	
	タイトル	館園実習 4
	フリー欄	各館における博物館実習の実施
	第7回	
	タイトル	館園実習 5
	フリー欄	各館における博物館実習の実施
	第8回	
	タイトル	館園実習 6
	フリー欄	各館における博物館実習の実施
	第9回	
	タイトル	館園実習 7
フリー欄	各館における博物館実習の実施	
第10回		
タイトル	館園実習 8	
フリー欄	各館における博物館実習の実施	
第11回		
タイトル	館園実習 9	
フリー欄	各館における博物館実習の実施	
第12回		
タイトル	館園実習 1 0	

	フリー欄	各館における博物館実習の実施
	第13回	
	タイトル	館園実習 1 1
	フリー欄	各館における博物館実習の実施
	第14回	
	タイトル	事後指導 1
	フリー欄	実習内容の振り返りと成果の整理
	第15回	
	タイトル	事後指導 2
	フリー欄	受講者全員による実習成果報告会と質疑応答
授業概要	①「博物館実習一」で実務指導を行い、直前に事前指導を行って学外の博物館で実習を行う。 ②博物館実習ノートにのっとり、博物館見学などに関する指導を行う。 ③学外実習後の博物館実習ノートをもとに、事後指導を行う。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	土日祝日を利用してさまざまな博物館・資料館などを見学しに行くこと。	
テキスト	なし	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	学外での博物館実習を経験した上で、学芸員として必要なことは何かを自覚して欲しい。	
評価方法	各館の評価（60％）、博物館実習ノートと事前指導・事後指導への取り組み方（40％）	
参考文献		
備考		